



引き続きコース規制行っています



緑沼の登山道の対岸に現れた単独のヒグマ

今年はコース内でのヒグマとの近距離遭遇や痕跡が相次いでいる沼巡り登山コース。引き続き緑沼周辺より上の方で長期にわたり居ついているクマが確認されている為、緑沼までの利用コース制限を実施しています。

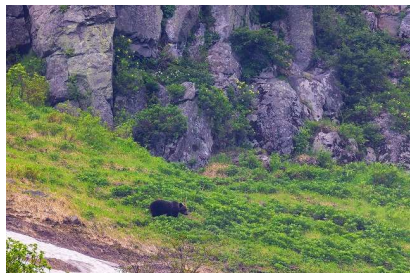
ヒグマの状況に応じて今後のコース再開を判断していくこととなりますので詳細はヒグマ情報センターにお問い合わせください。

【くまニュースVol.3 ~ヒグマ達との距離感~】

昨今のSNSの広がりにより、より多くの自然風景や野生動物達の写真が世に出るようになりました。これまで見たことが無かった風景や動物たちの表情など、非常に迫力があり美しい写真が多い反面、そうした写真を撮る為に立ち入り禁止箇所に入ったり動物との距離を一時的にむやみに詰めたりする一部カメラマンのマナーの悪さが取りざたされることもしばしば...ここ大雪山でも山小屋の周辺に出没する人慣れしたヒグマ達へ危機感無くむやみにアプローチして写真を撮っているカメラマンが目撃されたりしています。

ヒグマは本当に美しい生き物です。その姿を目にして写真を撮りたい気持ちは、カメラを持つ方であればきっと多くの方が共有できる事実でしょう。ただ、相手はあくまで野生動物で自然を生きる動物達。自然はいつだって我々人間の想像を遙かに超えてきます。人間が一時的に詰めたその一歩がヒグマ達にとってどういう影響を与えるかどうか、人がむやみにヒグマに近づきヒグマ達が今以上に人慣れしてしまう事によって起こりえる、人間とヒグマ双方にとっての問題を考える必要があります。

山はヒグマ達の住処。我々はそこにお邪魔させてもらっている。そんな当然のことが分かっているならば、ヒグマ達との適度な距離はおのずと見えてくるはず。野生とヒトには決して交わることのできない境界線があります。そしてその境界を分かち野生との適度な距離感が存在することを忘れてはいけません。



ヒグマの撮影では500mm(またはそれ以上相当)以上の超望遠レンズが"標準"になる沼巡りコース。写真左は700mm、右は500mmで撮影。適正な距離でヒグマ達を観察するには双眼鏡なども含め機材も重要です。



【くまニュースVol.4

今年の沼巡り登山コースは多くのヒグマとのコース内での近距離遭遇が有り、また最近では大学沼周辺に長く居ついている親子のヒグマが見られる事からコース制限も行われています。

高根ヶ原の斜面は昔から親子や、単独個体でも比較的若い個体が草を食べにくる場所で、体躯の大きなオスの姿はあまり見られません。

ちょうど繁殖期となるこの時期、オスはメスを探してかなり広い範囲を動き回るのでそうですが、メスは子グマを連れてしていると発情しないため、子連れメスを見つけたオスグマが子グマを襲ってしまうこともあるようです。

成熟したオスグマをあまり見かけない高根ヶ原斜面は、大学沼の親子ヒグマのような家族にとっての安息地なのかもしれませんね。

高根ヶ原斜面やその周辺に生え揃った草本類がすっかりと固くなってしまいうち8月後半には、沼巡り登山コースで見られるヒグマ達もぐっと減ってきてしまうようでヒグマ達はまた別の餌を求めて移動します。大学沼の親子達も同じように移動していくのでしょうか。

コースの制限はもうしばらく続くかもしれませんが、高根ヶ原斜面がこれからもヒグマ達にとっての季節限定の安息の場所であるように見守っていきましょう。

【くまニュースVol.4 ~大学沼親子~】



この親子が高根ヶ原斜面で最初に確認されたのは7月2日。



大学沼家族の2頭の子グマ。体の大きさからすると2年目の個体でしょうか。2頭で相撲をとったりします。



7月18日、鴨沼にて。付近の木に木登りしていた親子が木を降りて沼の方に向かって歩いてきました。

★ヒグマ情報センターの活動、沼巡り登山コースの情報などはSNSでも発信中ですので覗いてみてくださいね。



高原温泉沼めぐり 登山コースの様子



①7/22 高原ピーク 雪が解けて斜面のほとんどが緑色になりました。登山道も高原沼の上部に少し雪渓が残っている以外は全て地面が出ています。



②7/26 緑沼 エゾ沼に続いて2カ所目の携帯トイレブースを設置しました。



②7/23 緑沼 沼中央部に草地ができました。ルリイトトンボ等のとんぼが無数にあつまり、まさにトンボにとって天国のような場所になりました。



③7/23 小さな沢 分岐を過ぎて少し歩いたところにある小さな沢ではバイカモの花が咲きました。真っ白な花を咲かせ、水面を踊るように揺らんでいます。



④7/27 ヒグマによるミズバショウの食痕。7月中頃から毎日登山道沿いの食痕が増えています。特定のヒグマが付近をうろついているような気配があります。



②7/26 緑沼 秋の紅葉時期には今とは比較にならないほどの入山者が沼巡りコースを訪れます。木道を敷いてはいますが、人が多すぎて草地の上を歩いてしまうこともしばしばあるようです。植生を守るためにロープを張り、秋の繁忙期に備えます。



④7/27 ヤンベ沢付近 ホシガラスは7月中頃からセンターの近くからも見かけるようになり、朝や夕方に目立つ場所に複数羽が留まっています。



②7/22 緑沼 7月初旬に大学沼で親子3頭のヒグマが人に接近しつつも採餌を継続する様子が見られたため、コースを緑沼に制限しました。その後もしばらく大学沼付近に同じ個体が定着している様子が確認されているため、しばらくコースを緑沼までに制限しています。



⑤7/25 ところどころで落葉がみられます。雪解けが進んできた大雪山では、すべての動植物が短い夏を次の冬に備えて急ぎ足で成長しようとしているような気配が感じられます。



高原温泉
ヒグマ情報センター

大雪山国立公園高原温泉
沼巡り登山コース
第4号 (7月31日)
発行：ヒグマ情報センター